

Ivana Šrámková Beings



イヴァナ・シュラムコヴァ
ここにあるもの

《Slepice / Hen》2016年 作家蔵 撮影：Gabriel Urbánek

- 展覧会名：Ivana Šrámková – Beings / イヴァナ・シュラムコヴァ ここにあるもの
- 展覧会期：令和2年4月25日（土）－9月22日（火・祝）
- 開館時間：9時半－18時（金・土曜日は20時まで）
- 閉場日：第1、第3水曜日
（ただし5/6（水）、9/2（水）は開場、5/13（水）、9/9（水）は閉場）
- 会場：富山市ガラス美術館3階 展示室3
- 料金：一般 700円（500円） 大学生 500円（400円）
*（ ）内は20名以上の団体 *高校生以下は無料 *本展観覧券で常設展も観覧可
- 出品点数：86点
- 主催：富山市ガラス美術館（富山市西町5番1号）
- 後援：チェコ共和国大使館、チェコセンター東京、北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、チューリップテレビ、富山テレビ放送



チェコ共和国大使館



チェコセンター
ČESKÉ CENTRUM



■概要

チェコ共和国在住の作家イヴァナ・シュラムコヴァ（1960-）は、主に人間や動物をモチーフに、キャストの技法を用いたガラス彫刻や、吹きガラスのオブジェや器、そして油絵など幅広い方法で表現を展開しています。

作家は、自身を取り巻く自然や社会から着想を得て作品を制作します。四角形や円などに簡略化された人間の身体や、デフォルメされた動物のかたちには、作家が捉えた人間、あるいは動物の特徴や内面が現れています。空間の中で静かに佇む彼らの姿は、私たちに穏やかで親しみやすい印象を与えるとともに、どこか憂いを含んでいるかのようにも見えます。

本展では、43羽もの小鳥や、馬、狐といった動物をモチーフとする作品、内に秘めた人間の感情をテーマとする作品など、近年の作品を中心に約80点を展示します。これら個性豊かな作品たちを通して、イヴァナ・シュラムコヴァの生み出す独自の世界観をご紹介します。

■作家略歴

- 1960 リベレツ（旧チェコスロヴァキア共和国）生まれ
 1976-80 ゼレズニープロトのガラス学校で学ぶ
 1981-87 プラハ美術工芸大学のスタニスラフ・リベンスキーのもとで学ぶ

【主な展覧会歴】

- 1989 「Ivana Šolcová-Šrámková」 Glasgalerie Hittfeld、ハンブルク、ドイツ
 2002 「Ivana Šrámková: Zvířata a mart'ani」 Galerie Tunnel、プラハ、チェコ共和国
 「Ivana Šrámková: Robo-Animals」 ヘラーギャラリー、ニューヨーク、アメリカ
 2008 「イワナ・シュラムコヴァー ガラスの動物達 in 伊勢」 猿田彦神社 伊藤小坡美術館、三重
 2010 「Ivana Šrámková – Ptactvo」 Boučkův statek、マラー・スカー、チェコ共和国
 2011 「I Can't Stop」 DOX Centre for Contemporary Art、プラハ、チェコ共和国
 2014 「Orbis Pictus」 FOX Gallery、プラハ、チェコ共和国
 2016 「Ivana Šrámková a Tomáš Košťál」 Městská galerie Vlastimila Rady、ジェレズニー・プロド、チェコ共和国
 2017 「Šrámková, Soukupová, Najbrtová: Sochy, obrazy 10 let galerie S」 Galerie Pavilon、プラハ、チェコ共和国
 2018 「Ivana Šrámková – Skulpturen aus Glas」 Galerie Stefan Vogdt、ミュンヘン、ドイツ

【主な所蔵先】

- チェコ国立プラハ工芸美術館、プラハ、チェコ共和国
 プラハ国立美術館、プラハ、チェコ共和国
 北ボヘミア博物館、リベレツ、チェコ共和国
 ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、ロンドン、イギリス
 コーニングガラス美術館、コーニング、ニューヨーク州、アメリカ
 MUDAC 現代デザイン応用芸術美術館、ローザンヌ、スイス

アルスター国立博物館、ベルファスト、アイスランド
北海道立近代美術館、北海道
富山市ガラス美術館、富山

■関連企画

・参加型ワークショップ

「ペン型リユーターを用いての制作体験！オリジナルの器を作ろう」

直径 15cm のお皿にリユーターで絵を彫り込み、世界で一つだけのオリジナルの器を制作するワークショップです。

日 時：8月8日（土）①午前10時から ②午後2時から （各回90分程度）

※制作の進度によっては時間を延長する場合があります。

※開催の30分前から受付開始。

会 場：富山市ガラス美術館2階 会議室

講 師：ワタナベサラ（ガラス作家）

対 象：小学4年生以上（小学生は保護者同伴）

定 員：各回5名（事前申込制 [申込期間：7月17日まで]、応募多数の場合は抽選）

参加費：500円

※申込方法など詳細は、当館ウェブサイトをご確認ください。

・見どころトーク

本展覧会の見どころを、展覧会担当学芸員がスライドを用いながらご紹介します

日 時：7月4日（土）、18日（土）、8月1日（土）、22日（土）、

9月5日（土）、19日（土） （各回午後3時から、20分程度）

会 場：富山市ガラス美術館2階 会議室

※事前申込は不要です。会場への入場には観覧券をご提示ください。

※関連プログラムの日時は都合により中止、または変更となる場合があります。

最新の情報は当館ウェブサイトをご確認ください。

■広報用画像の貸出しについて

4p-7p の画像 1-12 を広報用に貸出しいたします。

ご希望の方は、8p の画像貸出し申請書の使用条件をご確認いただき

EメールかFAXにて富山市ガラス美術館広報担当へ申請書をお送りください。

E-mail：bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp FAX：076-461-3310

■ 出品作品

【人間をモチーフとする作品】

作家はキャストの技法を用いて、人間をモチーフとするガラス彫刻を多数制作してきました。そのほとんどが、人間の生命や存在を強く意識させる赤やグレーのガラスを用いて制作されています。作品の中で作家は、人間の持つ多様な感情や心の動き、特徴から抽出した要素を強調して表現しています。



1 《KURO》1996年 富山市ガラス美術館蔵
撮影：末正真礼生



2 《TORSO》1997-98年
富山市ガラス美術館蔵 撮影：岡村喜知郎



3 《FIGURE》1998年 富山市ガラス美術館蔵
撮影：末正真礼生



4 《Sedící král / Sitting King》2009年
作家蔵 撮影：Gabriel Urbánek



5 《Horká hlava / Hot Blood》2018年
作家蔵 撮影：Gabriel Urbánek

【動物をモチーフとする作品】

作家の作品の中で代表的とも言えるのが、動物をモチーフとするガラス彫刻です。動物たちの特徴を捉え、デフォルメしたかたちで表わされています。作家はこれらガラス彫刻の制作を通して、我々人間にとって大切な、そして愛しい存在である動物たちの姿を、オブジェとして現わすことを試みています。



6 《Modrý kůň / Blue Horse》2007年
個人蔵 撮影：Gabriel Urbánek



7 《Slepice / Hen》2016年 作家蔵
撮影：Gabriel Urbánek



8 《Tlustý Koník / Fat Horse》2016年
作家蔵 撮影：Gabriel Urbánek



9 《Muž a pes / Man and Dog》2015年
作家蔵 撮影：Gabriel Urbánek

【「Vase（花瓶）」の作品】

「Vase」のシリーズでは、型吹き技法で作られた器に、エナメルペイントやエングレーヴィングによる彫刻が施され、円筒形のかたちに沿うようにモチーフや物語が展開します。それら作品には、日常生活の中で目にするような人間や動物、植物の姿が生き生きとした様子で描かれています。



10 《NIGHT GARDEN》2020年
作家蔵 撮影：Gabriel Urbánek

【小鳥の作品】

豊かな自然に囲まれた環境の中で制作を行う作家にとって、「鳥」は非常に身近なものであり、想像を掻き立てるモチーフと言えます。本シリーズの中で作家は、自由を象徴する鳥をかたちづくとともに、鳥の姿に自身が制作の中で感じた自由を重ね合わせています。本展では、色とりどりのガラスと、石や金属のパーツ、カニの爪といった様々な素材を組み合わせて造形された43羽の小鳥たちをご紹介します。



11 (右) 《small birds (RAMPANT, TOO)》
 (左) 《small birds (RAMPANT)》
 2010-20年 作家蔵
 撮影：Gabriel Urbánek



12 《small birds (GRADUATE)》 2010-20年
 作家蔵 撮影：Gabriel Urbánek

【絵画作品】

油絵やドローイング、版画などの絵画作品は、作家にとってガラス作品のポートレートであると同時に、インスピレーションの源となり得るものです。作家はゴールを定めず描く中で、偶然生じたかたちや表現をもとに絵画作品を制作しています。作家は作品を通して、人間あるいは動物の持つ内面や性質、さらに人生といったものを浮き彫りにします。

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者：_____

T e l : _____ F a x : _____

E - m a i l : _____

住所：_____

団体名：_____

富山市ガラス美術館 画像貸し出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展

「イヴァナ・シュラムコヴァ ここにあるもの」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名：_____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨

別紙のとおり（媒体資料を添付してください）

4. 掲載（放映）日時：_____

5. ご希望の画像番号：_____

○作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。キャプション等の文字が写真にかぶらないようご配慮をお願いします。また、縦横比の変更やトリミングをご遠慮ください。

○作品掲出には指定するキャプションを必ず入れてください。

○作品画像の2次使用はご遠慮ください。

※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。また、画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。

○商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。

○校正グラの段階で情報の確認をさせていただきます。

○記事が掲載された場合はDVD、掲載紙、誌を一部ご寄贈いただきますようお願いいたします。

申請書送付先：富山市ガラス美術館広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax : 076-461-3310